



高齢者住宅における 入居者本位の食事サービスとは

昭和30年から40年代後半にかけて「独立愚連隊」や「日本沈没」などの東宝映画ロケ地だった生田丘陵の一角、神奈川県川崎市多摩区に、東宝不動産が平成17年6月に開設した介護付有料老人ホームSOL(ソル)星が丘があります。東宝不動産は映画演劇でおなじみの東宝の子会社で、主にビル賃貸・飲食・劇場売店・保険代理業を行っています。介護事業への参入は、映画ロケ地の土地区画整理事業後の社有地の再開発が始まりで、平成16年3月に介護事業の運営会社として東宝サポートライフを設立いたしました。

当ホームでは「ご入居者様の自立のお手伝いと豊かな暮らしの実現を」との運営理念のもと、ユニットケアを導入し、お一人おひとりをありのまま受け入れ、個別ケアの実現に努めています。特徴は介護の質の高さと充実した医療体制、飲食業を50年間手掛けてきた実績をもとにした食事サービスです。介護職員の配置が実質1.25対1以上という手厚い介護体制に、医療体制も在宅療養支援診療所「たまふれあいクリニック」と連携し、週3回の往診と24時間看護体制でターミナルケアを実践。終末期も事前に入居者本人や家族に意向を確認し、状態の変化に応じて医師と話し合いながら対応しています。

当ホームの食のこだわりは、「食を楽しむ」ということです。新調理システムを導入して、旬の食材そのものを活かしながら栄養素を逃がさない調理や、嚥下障害の入居者向けに、従来の介護食ではできなかった、見た目も美しいソフト食の提供も可能にしました。もう一つは「家庭の団欒の再現」です。ユニットごとにご飯を炊き、味噌汁を温め、できたての湯気と香りを感じていただいています。配席や入居者同士の会話に気を配りながら、最も大事な「食事の時間をいかに楽しむか」ということを心がけています。

高齢者住宅経営者連絡協議会では、2013(平成25)年度に「食事サービス委員会」を設置し、高齢者住宅における食事サービスの実態を把握するとともに、今後の高齢者住宅に求められる質の高い食事サービスとは何か、また、利用者に真に満足してもらえる食事サービスとは何かということを検討し、2014(平成26)年10月に報告書

「高齢者住宅における食事サービスについて」を発表しました。本報告書では委員会委員の所属団体へアンケート調査・現地調査・ヒアリング調査をとりまとめたうえで、その結果をふまえ、高齢者住宅における食事サービスのあり方や、高齢者住宅事業者として食事サービスの今後の新たな展開について考察しました。報告書は高経協のホームページで公開しているのので、ぜひご一読下さい。

団塊世代の高齢化にともない、食に対するニーズが一層多様化していくなか、今までの給食のような食事提供の形態がこのまま続くのかという指摘があります。コンビニエンスストアの進化がすさまじく、近い将来、コンビニが給食会社に代わって食事を提供するのではないかとの意見もあります。

高齢者への食事のあり方については「食べたいものを食べたいときに、食べたい分だけ食べる」「食べたくないときには食べない」といった要望に即した食事サービスがあってもよいと考えます。また、終末期の方に対しては入居者の食事は、食べることへの苦痛を与えてはならず、『食べない』という選択肢もあり、周囲の安心のためにひたすら食べさせようとするのは厳に慎むべきと考えます。高齢者住宅事業者と調理担当者が食事に対する理念として、「高齢者住宅で入居者本位にこだわったおいしい食事をつくる」という考えをしっかりと共有できていれば、自営方式でも委託方式でも入居者に満足いただける食事を提供できると思います。

これからも個々の高齢者の気持ちを大切に、どうしたらおいしく食べられるか、どうしたら楽しく食べられるか、ということにこだわって、高齢者住宅の食事サービスを考えていきたいと思っています。

佐伯 智

さえき・さとる

●PROFILE

東宝サポートライフ株式会社専務取締役。介護付有料老人ホームSOL星が丘支配人。高齢者住宅経営者連絡協議会食事サービス委員会委員長。

